

令和 3 年 4 月 23 日 議会改革特別委員会 議事録

9 時 58 分 開会

○出席委員 (8 人)

委員長 寺岡 公章

副委員長 日域 究

委員 藤川 和弘、小中真樹雄、小田上尚典、西村 一啓、網谷 芳孝
山崎 年一

議長 細川 雅子

○欠席委員 なし

○寺岡委員長 皆さんおはようございます。全員おそろいいただきましたので、ただいまより議会改革特別委員会を開会いたします。

本日、皆さんと協議したい点が 3 点ございます。日程のほうを御覧ください。

1 つが中間報告について、それから、決算審査と議会提案について、ロールプレイ振り返りをしていきたいと思います。それから、最後に議会報告会で当委員会から何か提案して、議会報告会当日に市民の皆さんと意見交換なり報告なりする、そういったものを何か事項があるかどうかというところを決めていければと思います。

では、最初に中間報告について、サイドブックスに案をつくらせていただいております。作成させていただいたんですけど、もちろん、あくまで今は案の段階です。できるだけコンパクトにしようかと考えながらやりました。できれば 1 枚に収まる格好になるように意識をしました。細かいところを本会議場で報告してもしようがないというところもありますので、省略も入れながら、この委員会の中で決まったことをピックアップするように気にしながらつくらせてもらっています。

どうでしょうか。初めてなので、1 回、読ませていただきますので、目で追っていただけたらと思います。

議会改革特別委員会は、議員のなり手不足解消と、市政の課題に適切かつ迅速に対応するための継続的な改革の必要性を鑑み、民主的な市政の発展と議会の活性化にむけて、令和元年 9 月議会において 8 名の議員により設置され、不肖、私、寺岡が委員長に、日域議員を副委員長に選任いただき、付議された事項に関する協議を行ってまいりました。このたびの 6 月定例会の場をお借りしまして、委員会設置後 1 年 9 カ月間、計 23 回の委員会での協議内容と成果について御報告いたします。委員会設置後、まずは検討すべき項目について委員から意見を挙げ調整した結果、SNS を活用した議会活動の情報発信、委員会の映像中継、議員間の自由討議の制度整備、決算審査と議会提案について、実現に向けて検討を進めていく運びとなりました。その後、委員会にて各項目について詳細部分まで検討してまいりましたが、本席での紹介は省略させていただきます。続いて、運用についての協議の末、SNS 活用と委員会中継及び自由討議制度について、令和 2 年 9 月の議会運営委員会において試行することの御承認をいただきました。これにより SNS 活用と委員会

中継においては事実上開始され、自由討議は各委員会にて、その場面を待つ準備が整っております。以上3点については、令和3年3月の議会運営委員会において、それぞれ要綱及び申合せとして明文化したものを提案させていただき、御承認をいただいたことで、大竹市議会の仕組みの一部に組み込まれました。一方、期間途中から、これらの事項と並行して協議をしてきた決算審査と議会提案については、当委員会内での意見交換のほか、令和3年度予算委員の皆さんの御協力の下、ロールプレイの試みも行ったところではありますが、今なお、他項目と比べ、個々の認識の差異が大きいことから、イメージの統一に時間を要しており、現時点で制度整備に至っておらず、研究と協議、調整が続くこととなります。最後に、私ども8名の委員に対しまして賜りました議員各位の御協力に感謝するとともに、引き続き本特別委員会の設置の理由である「市民に開かれた議会」「市民参加を推進する議会」「市民に信頼される議会」を目指し、民主的な市政の発展と議会の活性化につながる議会改革の推進に努めることとし、議会改革特別委員会の中間報告とさせていただきます。

細かいところも含めて、それぞれ委員の皆さん、何かお気づきがあるかと思います。今日は最初の御披露ですので、案として、これに付け足したり、削除したりということは、これから作業が必要になってくるかと思います。お持ち帰りいただき、次の会議までに御意見頂戴したいところなんです。最後に皆さんに、また日程調整していただくんですが、先の6月の定例会が、今のところ6月17日が予定されています。これ、議会運営委員会で通らないと、もちろん確定はしないんですが。となれば、5月のうちの特別委員会開くのが17日が月曜日なんです。この週のいずれかというところで、また、後ほど皆さんにお諮りするかなと思います。となれば、その前の週の後半ぐらいで、皆さんからの意見募集は一旦締切りさせていただきたいと思います。それぐらいの日程でいかがですかね。十分、お持ち帰りいただいて検討していただける時間はあると思いますので。

それでは、5月14日金曜日、この日までに、何か御意見ある方は事務局を通じて頂戴できればと思いますので、よろしくお願いします。

この件について、何か質問はありますか。特にこの中では、藤川委員と小中委員が中間報告というのは初めてだと思うんですけど、イメージつきますかね。大丈夫かな。

では、よろしくお願いします。

では、日程2ですね。決算審査と議会提案について、協議をしていきたいと思います。

先週ですね、1週間前、4月16日金曜日に令和3年度の予算委員の皆さんのお力をお借りして、御協力いただいて、実際に意見取りまとめるとしたら、どういう格好になるかというロールプレイをさせていただきました。この中の委員も皆さんも多く御出席、また傍聴いただいたところです。

特に何かを狙ってやったというわけではなく、協議の過程そのものを試してみたというところなんですけれども、最後に参加していただいた模擬の委員さん、それから傍聴された方、事務局からも気づきを述べていただきましたので紹介します。

委員会形式でやりましたので、委員長が指名をして発言いただくという形でやってみました。それに対して、もっと自由に意見を出せたらいいんじゃないかということですね。

起立とかせず、意見が出やすい工夫、テーマというのをもっと絞ってもいいかもしれないという御意見。また、選んでいくときに、どういう視点でというのは明確にしておいたほうがいいんじゃないかということ。例えば基本構想とか、基本計画とか、予算そのものと結びつけて意見交換をしていけば、まとまっていくんじゃないかという気づき。議会としてやるときに1点で集中していくのか、幅広くやっていくのかという御意見もあります。それから、予算特別委員会中で質疑をしたんだけど、執行部から明確な返事がないものもあるので、それを執行部が事後の回答ができるように、執行状況がちゃんと確認できるようにしておくのも議会の役割なんじゃないかという御意見もありました。また、その年その年で絶対にテーマを出さなければいけないというものでもなく、例えば、これ、傍聴された方からの御意見なんですけど、令和3年度については、予算審査はしっかり時間をかけてやっているんで、わざわざ議会全体で提案というものでもなかったのじゃないか、すぐにでもやらないといけないというものはなかったのじゃないかという御意見。まあ、予算特別委員会内で済ましておくこともあり得たということも含めて気づきがありました。あとは、予算委員で何とかというよりも、正副議長や正副委員長でこういったものを決めていったらどうかということ。これも先ほどの御意見と近いんですが、軽いような内容では、議会全体が軽く見られると、テーマの重さというところを思いながら選定していく必要があるんじゃないか。こういった辺りが物足りなかったと御意見もありました。

こういったところが感想としてあったので、今後、これまでの要綱とか、申し合せをつくってきたものと同じように、何らかの形で明文化して、やり方と決めていかなければいけないと思うんですよ。

これは、あくまで参考としてなんですけれども、ほか、実際にやってみた方、当日所用で来られなかった方もいらっしゃいますけれども、何かこう、ここはどうだったとかいう問い合せとかあったら受け付けたいと思いますけれども、何かありますか。

小田上委員。

○小田上委員 当日、参加できなかったのですが、伺いたいところがあるんですが、内容の話を活発に起立したじゃなくできるようにという内容あったと思うんですけど、この開かれたものは予算特別委員会という形になっているのか、何かの委員会という形になっているのかどうかというところが、前提がはっきりしていれば委員会形式を取ることになると思うんですよ。委員会形式を取った場合に、今まで何度かこの中で話をしてきた自由討議というところに一旦休憩して入れて、討議して行って、自由に議論して行って、まとめたものをまた再開して委員長がまとめていくという流れもできるんじゃないかなと思ったんですけど、そういう流れは、何か適さないような雰囲気でしたかね。

○寺岡委員長 雰囲気だけでいえば、あり得たと思います。

今回、あくまで予算委員を実際に務めてくださった皆さんですので、委員会形式でさせていただいたというところがあります。もし仮に、今後またロールプレイや執行の段階まで行けば、今、小田上委員が提案されたようなこともやってみるということは、いいことなんじゃないかなというふうに思います。

ただ、フリーというか、自由討議にして、逆に意見が出過ぎたときに、どうやってまとめ

るのかという心配はありますけれども、活発にするには、いいやり方の一つだとは思いますが。

答えになってますか。

そのほか、いかがでしょうか。

副委員長、どうぞ。

○日域委員 この前、参加してみて、一つの何もない状態から、まず1回やってみたわけですから、そういう意味では非常に価値があったと思います。ただ、委員会という形をとって、そこで口頭でしゃべるわけですね、口でしゃべるわけですね。やっぱり議会在、要は予算といえはです、決算となれば、また若干違うんでしょうけども、決算であつてもです、それを認定しないというの、もちろんあるわけですけども、そこまでじゃなくて、要するに認定はしたと、予算でいえば予算は通したと、そういう前提の上で要望なり意見ですね、当然。こんなやつで行けるかいやと言って、予算を否決したんだったら、要望もくそもないですからね。

だから、予算なり決算なりを取りあえずオーケーですよというのを出した後に要望として出すのであれば、それなりの中身がないとおかしいという気がしますし、文書でいろんな理由を書いて、ひょっとしたら何人かの議員が、もちろん会派でもいいし、会派超えても構わないと思いますけれども、何人かの賛同議員でもいいからですよ、なかなか面白いかなという気がしないでもないですけども。

委員会の場で唐突に、唐突という言い方、変かもしれませんが、話をしても、なかなか思いが伝わらないというか、理解もできなかったりしますから、だから、委員会で決めたことを超えて、プラスアルファの要望というか、お願いをするわけですから、中身が皆さんに分かるような形でやったほうがいいのかないかなというのは思いました。

以上です。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

文書での意見の聴取というか、そういうことも考えられるのではないかなという。ありがとうございます。これは、今の御意見は、これまでのこの委員会の意見交換の中では初めて出たアイデアですので、面白いなと思いました。

そのほか、何かありますか。

網谷委員。

○網谷委員 この前のロールプレイですか、あんまり意味が分らんですが、いろんな協議の中で、やはり漠然とこう、一応、これは模擬の委員会ということで、予算特別委員会を例に出したんですね。最初のこのスケジュールの中では、決算特別委員会が主な感じになっておるんですがね。あまりにも視野が、このたびの場合は予算特別委員会ということで、例を挙げて協議したんですが、視野が狭いというか、もう少し大きな範囲で各委員の意見を聴取したほうが、その中でよりよい効果的な質問事項といひますか、要望事項になるのではないかなということをして。

令和元年11月19日の議会改革提案事項と根拠という資料の中で11番ですよ、決算特別委員会などで出された要望や意見を整理して、全庁に係る必要なものは、議会として議長

名で市長に要望するとなっておるんですよね。

○寺岡委員長 発信していただいていいですか。

○網谷委員 どれやったらいいか、分からんですがね。

あの中で、皆さんの要望の中で出したやつですよね。

○寺岡委員長 1年ぐらい前のですね。

○網谷委員 そうそうそう。最初のやつですよね。あれが、一番基本になつとると思うんですがね。

それで、この間も申しましたように、若干出てるといいますか、だんだんハードルが低くなったような、この間は私も申しましたんですがね。原点に戻るいえば、原点に戻るんですかね。要するに重みのある、何回も言うようなんですが、提案理由にさせていただいたらということを言いたかったわけでございます。分かりましたかね。

○寺岡委員長 いつの文書ですかね。何月。

○網谷委員 11月やったね。おとしのね。分かりますか。

○寺岡委員長 それは、何となく分かるんですが、ここに欲しいんです。

○網谷委員 待ってくださいね。今、探したらありますが。僕が探したら時間かかる。

後でいいですよ、それじゃ。ほかの方の意見、先で。

○寺岡委員長 最初の計画のときにあった理由と離れてきているんじゃないかという。そういうことですかね。

○網谷委員 ざっくり言えばそう。

○寺岡委員長 そうですね、網谷委員は常々、出すんなら重いものを出すというふうなことは御意見としてずっと持っておられますので。そこでは、一番最初のこの委員会の活動を決めるときのもともとの理由というものを見直してもいいんじゃないかという、そういう御意見ですね。

はい、分かりました。ありがとうございました。

そのほか、何かありますか。

小田上委員。

○小田上委員 すみません。日域副委員長の話を伺っていて思ったところもあるんですが、今回、テーマを特に決めずに始められたと思うんですね。予算審査の中で、こういうものがあつたんじゃないかという洗い出しから始まったんですかね。なので、その洗い出しをする作業と実際にどれにしていくなという作業は別日にして、洗い出しする作業だけは先に行っておいて、ある程度絞った状態で入っていかないと、中身の話はできないのかなと思いました。なので、事前に準備しておくことができるようになるかなと思いました。

あと、疑問点というか。基本的には予算決算、実質は決算のほうになると思うんですが、審議の中で出てきた要望だったりというものを出すということになると思うんですが、協議をしていく中で、これ、実際に決算審査で出ていないけど必要なことだよねという話になったものが出た場合、それは出るのかなと。決算審査中に、その言葉に触れていないから提案できないよねというふうになってしまうのか、そこがどうなのかなという疑問です。

○寺岡委員長 まず、洗い出しの日とテーマを絞っていく日は別のほうにしたほうがいいんじゃないかということと、これは一つの考え方としてね、スムーズな進行という意味ではいいやり方だと思います。

それから、決算審査中にやり取りがなかった案件について、いろいろ調査をしていったら、やっぱりこれ必要じゃないかというふうなのが、ぽっと出たときにどうするかということですが、これは本当に必要であれば、通常の議員提案、議会提案すればいいんじゃないかなと思います。要は、その議員さんが議員として賛同者を集めて決議案をつくって本会議場で決議をすれば、執行部に対する要望にはなり得るかなというふうには思います。あくまで決算審査を次の予算にどう生かすのかというのがスタートでしたから、そこであれば、決算審査をしっかりと洗練されたものにしていく努力をやっていただきたいなというところかなと思います。

いろいろ出ますね。ほか、どうですか。

どうぞ、日域副委員長。

○日域委員 私ばかりしゃべっているみたいですが。皆さんの話聞いているといろいろ考えるんですけども、もともと予算決算って、特に一般会計のなんかの場合ですよ、多岐にわたりますよね、内容が。中には、あれも100%、どの部分においても、私、賛成ですという人もあるかもしれないけど、なかなかそうじゃなくて、この部分はひょっとしたらこうよねとかですよ、部分的には、皆さん100%じゃなくて、おおむねオーケーやけど、この部分は本当はこうしてほしいよねというのが必ずあるはずなんです。それで皆さんがこの部分が反対じゃけ、わしは一般会計反対ですってもしやったら、全員が90%、95%オーケーと思っていながら、皆さんがあら探しをしてね、あれよくないと言ったら否決になるんですよ。95%いいけど、わし、あの部分が嫌なんよ、じゃけ、わし反対って、そういう議員が半数いたらですよ。でも、納得、当然必要な、ただ反対のない部分が圧倒的多数の部分をお占めていても、結果的に否決になってしまうという。そういう、あまりに広過ぎるから、そういうような性格を持っている議案なんですよ、一般会計の予算案とか決算案というのは。

だから、あれを否決するといったら、よっぽどすごいことがないと否決できないわけですからね。だから、皆さん賛成で、全会一致で賛成になるケースがほとんどなんですけども、でも、賛成はしたものの、やっぱりこの部分は気になるよねというのは、多分、ほとんどの議員の中にあるものだと私は思うんですけども。

だからこそ、全体では賛成やけど、個々の人、個々の議員としてですよ、それぞれ思っている部分をひょっとしてかき集めたら、意外に賛同者が多かったり、これ、本当は大事よねという部分があるだろうと。そういう意味では、予算案の審議とか、そういうものを何といひかな、弱点を補強する、フォローする意味では、こういう要望をまとめて出すことは意味があるかなと。

前にも言うた話じゃなくて、そもそもこういうものが必要か否かというレベルまで話を下げたときに、やっぱりあっていいものだ、いいんじゃないかという気が今はしています。ただ、それをまとめる過程においては、やっぱり気がつかない方もたくさんいる話でしょ

うからね、誰かさんが言って、うん、そうよねって、その場で5分ぐらいの話を聞いて全部が分かるわけじゃないですから、やっぱり提案をするからには、さっき文書と言いましたけど、やっぱりいろんな方法で、ほかの方に分かってもらえるような仕組みは必要なのかなという気はします。

それがさっき重みがあるとか、ないとかいう基準も確かにありますよね、議会としてですよ、あんまりね、なんでこんなつまらんこと言うんやって思われても面白くないですから、それとの絡みでも、やっぱり議場の中でちゃんとできるんじゃないかなと。そういうような決め方をしていかなくちやいけないんじゃないかなという気がいたしました。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

予算のほうは、制限があるとはいえ議員から修正案を出せるじゃないですか。決算は修正して認定ということはあり得ないでしょうからね。帳簿の話ですから、数字をここを、それはもう明らかなミスの場合は改めて再提出みたいな感じにはなるんだと思うんで、そういった意味で、議会の意思を決算を通じて出すというのは、今の副委員長がおっしゃったようなやり方の一つとして、反対部分かき集めてという表現使われましたけど、あり得るのかなと思いました。ありがとうございます。

ほかは、どうでしょうかね。よろしいですか。

いろいろ意見出ました。前回のロールプレイのときの感想、これは非公式の会議でしたので、あくまで参考程度にしかならないんですけど、前回のロールプレイに出た感想というのはね。でも、今、また紹介させていただきましたので、改めてこれをまとめて形をつくっていくように努力しなければいけませんので、委員会として、準備をさせていただきたいと思います。それぞれの委員の皆さんのよいと思ったやり方というものが、いい具合に融合していけばよろしいかなと思いますので。これまでの会議で決まってきたこと、例えば、予算特別委員会では予算委員が中心になってやるとか、本会議でみんなで決めるとか、そういったものは外れないように、またたたき台をつくっていききたいと思いますので、次回以降の会議で、また皆さん方から意見をcollectしていきたいと思います。

この件については、今日、この程度にしておきたいんですけども、よろしいですかね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○寺岡委員長 ありがとうございます。

また中間報告は6月にさせていただくんですが、7月、8月も、もしかしたらこのテーマはまとまっていなければ、任期期間中は、我々のこの委員としての期間中というのは、やっていくことなのかなと思いますので、よろしくお願いします。

では、日程3、議会報告会からの委員会からの提案について。

これは、常任委員会では進めてくださっていますので、こういったものか分かると思います。私たち特別委員会としても、市民の皆さん方にアナウンスしたり、逆に御意見を頂戴したりと、そういった場面にもなり得るかなというふうに思います。活動の報告もしながら、逆にこの部分、住民の皆さんどう考えている点かなというのを聞くとか、そういった視点で構いませんので、何かテーマになり得るものがあれば、今日午後、班長会議がありますので、この場でまた出させてもらおうかと思いますけど、いかがでしょうかね。

究極、うちからは特にはないですよというふうなこともできますけど。どうでしょうか。
小田上委員。

○小田上委員 中間報告でSNSと動画の発信というところは、もう試行されているというところあろうと思います。これに関しては、市民の方も触れるところあると思うので、その意見を聞いて、どういうふうにブラッシュアップできるか、見てもらう機会がどうやったら増えるのかというところはしっかり聞いてもらうような、そういうテーマというのの一つありなんじゃないかなと思います、この1年半以上やってきた中でですね。

○寺岡委員長 SNSと動画、これ、中継のことですよ、委員会中継について、実際のところ、我々は情報発信ですというような形でやっていますが、どれぐらいの市民の方が触れてくださっているかというところは、まだ正直、実態調査というのはしていません。何というんですかね。どれぐらいの人がそのページに来てくださったかというのはすぐ分かりますけど、実際それが市民に浸透している生の数字かどうかというのは別問題にもなりますし、ふだんから市民の皆さんが議会に興味関心を持っていたいて、訪れてくれるようなものにするにはどうしたらいいか、要はお客さんに直接聞くというふうな、そういうことですよ、ニュアンス的にはね。何かよい点があったら、改善を重ねていくというところで、なるほど。そのための意見を聞いてみるということですね。これは面白いですね。

当日はでも。プロジェクターは去年から使っていないのでしたっけ。局長は分からない。おとしから使っていないか。

〔発言する者あり〕

○寺岡委員長 せっかくなので、もし、これが班長会議で採用していただけたら、実際に動画を流してみたりとか、こんなSNSページ作ってますよという披露はできるかもしれませんね。そうやって身近に感じていただくのは可能かもしれません。

そのほか、うちの委員会から何かありますか。

藤川委員。

○藤川委員 今の意見、すごい賛成です。せっかく試行されているので。実際、SNS、フェイスブック、見ている方、少ないですよ。もちろん、いいねの数も同僚議員がいいね押しているぐらいの数しかありません。ユーチューブも本会議はまだ10、20あるのもありますけども、委員会は当初、試行されてすぐは、多分、役所の職員の方が見られているので上がっていましたが、ここ最近はほとんどの方が見られていないんですね。周知方法もホームページなり、広報なりで発信はされていますけど、この委員会でQRコードなり持って行って、お知らせするところからスタートしてもいいのかなと。もうQRコード読んでもらって、これがユーチューブつながりますよ、フェイスブックつながりますよという。やっていることの周知ですよ、そこも大切なのかなと、今、思いました。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

どうでしょうかね。この件を班長会議のほうに提案してみましようか。反対がなければ、我々のこれまでの取組に対しての責任を果たすという意味でも、今後の改善もにらんでですね。

これでいかがですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○寺岡委員長 ありがとうございます。

じゃあ、そういうふうにさせていただきます。実際に採用されるかどうかは別ですので、それは御理解をいただけたらと思います。

日程については、以上で終わりたいと思います。

次回開催が来月の、先ほど申し上げましたように17の週というところで調整をしていきたいと思うんですが、まずは議長が駄目な日はどうでしょうか。

局長。

○三上議会事務局長 正確ではないんですけども、今のところ、その週に予定は入っていないと思います。

〔発言する者あり〕

○寺岡委員長 18日に奨学金貸付審議会があると。そうしたら、総務文教委員長も来れませんか。

〔発言する者あり〕

○寺岡委員長 それじゃあ、18日は外しましょう。

山崎委員。

○山崎委員 21日の午前中、外してください。

○寺岡委員長 21日の午前中が駄目。

となれば、次の週、あれなんで、19日水曜日辺りいかがでしょう。19日水曜日の10時からとか。どうですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○寺岡委員長 じゃあ、次回は5月19日水曜日の10時からとさせていただきます。

先ほど申し上げましたように、中間報告について、これは私たち委員会が本会議場で、この委員会の取組として紹介する、紹介というか報告するものですから、きっちり仕上げていきたいと思いますので、確認をよろしく願いいたします。

では、以上で議会改革特別委員会を閉会します。どうもありがとうございました。

10時35分 閉会